

令和5年度
(第34期)
事業報告

社会福祉法人A J U自立の家



目次

・ 令和5年度を振り返って	1
・ 福祉ホーム	2
・ デイセンターサマリアハウス	3
・ 自立生活体験室	4
・ マイライフ	6
・ マイライフ西	8
・ 自立生活情報センター サポートJ	10
・ わだちコンピュータハウス	11
・ ピア名古屋	14
・ 小牧ワイナリー	16
・ 昭和区障害者基幹相談支援センター	19
・ 相談支援事業サマリアハウス	21
・ マイプラン・ケアマネジメントセンター	23
・ AJU リカバリーセンター・フェロー	25
・ 社会啓発・社会貢献事業室	27

令和5年度を振り返って

令和5年度は、急激な円安の影響を受け、エネルギー資源や多くの食材等、物価が高騰し、国民生活にも大きな影響を与えました。AJU 自立の家においても例外ではなく、物価高に加え、人材不足に悩まされるなど、法人運営は、たいへん厳しい状況となりました。

こういった厳しい運営環境を乗り切るため、これまでの「事業部体制」を見直し、各部署単位による「所長体制」へ移行しました。このことにより、法人運営に新たなメンバーが加わり、問題共有とその解決策等、活発な議論ができました。

人材育成面では、「教える教わる風土づくり」として、TAL (teach and learning) を法人全体へ拡大、取り組みを実践しました。コミュニケーションを柱とし、上長（所長ほか管理職）と職員との個別面談を定例化しました。面談では、各職員において、部署の目的達成のため、1年間自分は何をするのか。また職員として成長するために伸ばしたいスキルは何かを明確にし、その進捗度合いのチェックと改善点などをこれまでのOJTで培った手法を用いて共有しました。このことにより、互いの問題解決力向上・モチベーションアップ・スキルアップが図られ、結果として、部署全体＝法人全体のパフォーマンスが向上していくことが期待されます。

新型コロナによる行動制限も2類から5類へ移行したことにより緩和され、ヘルパーステーションマイライフによる人集め企画のイベントを実施、次世代の人材確保の取り組みを進めることができました。

財政面においては、事業収支改善のため、3%の数値改善目標としました。しかし、事業活動収入では、前年度1,458百万円に対し、今年度1,418百万円となり、39百万円の減収となりました。事業活動支出は、前年度1,394百万円に対し、1,425百万円となり、31百万円増となりました。結果、収支差額は、前年度63百万円に対し、今年度は、▲6.9百万円となり大きく悪化しました。リカバリーセンターフェローの利用が大きく減少したことが、大きな要因です。

たいへん厳しい運営状況下ではありますが、障害のある仲間が自分らしく生きるための社会づくりについて、歩み続けていきますので、より一層、ご指導、ご支援くださいますよう、お願いします。

社会福祉法人 AJU 自立の家
常務理事 辻 直哉

福祉ホーム

I. 総括

今年度、入居者や卒業生とのコミュニケーションを強化し、支援体制を充実させるための取り組みを行っています。また、施設の運営や改修に関する課題にも取り組みながら、より良い福祉サービスの提供を目指しました。

II. 事業の実施状況

1. 令和5年度の目標達成のための具体的行動

①「障害者の下宿屋」の理念の継承

- ・体験室事業からホーム入居者の目標を5名に設定し達成することが出来ました。名古屋市内2名、愛知県内1名、県外2名からの入居がありました。
- ・サマリアハウス一体的に、のべボランティア120名、実習生363名の方へアプローチを行いました。

②施設、特別支援学校、相談支援センターを訪問し、自立生活体験室の取り組みを伝え、地域生活を志す障害者を発掘します。

- ・体験室、福祉ホームの入居と協力し、名古屋市内基幹相談支援センターを19カ所、東海三県の特別支援学校への体験室利用及び、四季体験参加者の利用を募りました。

③次世代移行プロジェクトのテーマ「人を育む」を実現するため、課題を整理し解決するために取り組みます。

- ・スタッフのスキルアップを図るため外部講師を呼び、発達障害、高次脳機能障害についての研修を行いました。

2. 入居者(令和6年3月末)

氏名	年齢	区分	生活状況等	入居期間
Yさん	52	6	デイセンターに通所。10月退居予定。	3年5カ月
Mさん	29	3	就労支援B型に通所。	11カ月
Kさん	55	3	デイセンターに通所。介護保険利用者。	3年
Nさん	31	5	デイセンター通所。CILなどのイベント参加。	1年3カ月
Oさん	36	6	24時間の重度訪問を使いながら生活中。	7カ月
Hさん	24	6	4月初旬に名古屋市内のアパートに転居予定。	4年3カ月
Sさん	44	4	4月初旬に岩手県の市営アパートに転居予定。	3年11カ月
Kさん	23	6	デイセンターに通所。	10カ月
Nさん	65	6	デイサービス通所。介護保険利用者。	1年9カ月

退居者(令和6年3月末)

氏名	年齢	区分	生活状況等	入居期間
Tさん	61	6	多臓器不全により死去。	7カ月
Wさん	42	6	長期に入院中、体調の急変により死去。	2年5カ月
Aさん	22	6	大学卒業し静岡の実家へ戻られた。	4年
Mさん	51	4	名古屋市内のアパートに転居。	8カ月

III. 継続課題

- ・入居者同士、先輩当事者、職員との交流機会の増加。
- ・当事者への支援の質や幅が広がるよう、スタッフのスキルアップを図る。

デイセンターサマリアハウス

I. 総括

コロナ 5 類移行後、ニーズが多かった外出活動や実習生等と複数人での交流などが再開され、活動が活性化しました。しかしながら、2 次障害による重度化、心身不調が続く方もみえ傾聴、寄り添いにも努めました。

II. 事業の実施状況

1. 令和 5 年度の目標達成のための具体的な行動

①デイメンバーのニーズに等しく対応し楽しさと学びを感じてもらえる場、気軽に話、相談、一緒に考え解決できる場を強化します。

- ・各デイメンバーから外出、調理、実習生対応希望があり、スタッフからメンバー同士の声かけも促しながら、各種活動企画はデイメンバーと立て実施（月平均 13 日）しました。
- ・実習生対応は「障害当事者」の強みを生かし、やりがいを感じる場として社会福祉士（5 校）看護（2 校）介護福祉（1 校）心理（2 校）教員（3 校）延べ 363 名の対応をほぼ毎月しました。又、実習生対応後、ミーティングにて振返りの場を設け、情報交換し学びあいの場にもなりました。
- ・地域生活、福祉用具（車いす）、体調などの困り事相談が多々あり、個別に寄り添い、関係機関にも連絡しながら一緒に考え、解決にむけて対応しました。

②法人内関係事業所、サマリア内部で連携、協働で人材発掘支援体制を構築します。

- ・実習生にヘルパー事業所の話をし、登録の案内をしました。かつ、各種イベントボランティアや体験室ボランティアへも繋げました。（5 名の方が定期的に協力）

③講座やイベントの情報提供をし、共に学びあい、スキルアップできる研修機会を創出していきます。

- ・地域の防災ボランティアの方達からの「地震防災備え」講座や外部当事者講師と「交流座談会」を実施しました。県外 CIL にも訪問し、イベントにも参加し外部の活動を学びました。スタッフは社会福祉協議会、福祉用具プラザの講座を受講し、スキルアップに取り組みました。

2. 前年度実績との比較

	来所延べ数	平均利用者数	給食サービス	送迎サービス
令和 4 年度月平均	305 人	12.0 人	212 食	127 人
令和 5 年度月平均	308 人	12.1 人	213 食	124 人
前年度比	101%	101%	100%	98%

※補助金収入 令和 4 年度¥72,525,116 円：令和 5 年度¥72,331,321 円：前年度との収入比 98%

- ・令和 4 年 6 月に週 5 回利用されていた男性が他界。他、ステップアップとして就労 B へ 1 部移行された方 2 名、施設入所、入院で 2 名。新しい利用者（名古屋市外）2 名加わるも名古屋市独自の補助金助成がうけられない為、平均利用者数は前年度比変わらないが、収入は減。

III. 継続課題

- ・個々の障害特性、強みを生かした新たなプログラムの創出と活躍の場を提供します。
- ・TAL を通して人を育みあう意識をもち事業遂行します。
- ・デイメンバーの 2 次障害による重度化、高齢化による問題、課題の整理、情報共有と関係機関と連携した支援をすすめます。

自立生活体験室

I. 総括

重度心身障害者や高次脳機能障害を抱えている方の支援をする機会が増え、研修等行いながら実践に生かす働きをしました。また、社会的な行動制限が緩和されてはきたものの、施設入所者の外出制限が多くある中、ICT 技術を活用しご本人の近況や気持ちの継続ができる支援を行いました。

法人内他部署との連携はもちろん大学や相談支援事業所とも連携をしながら福祉ホーム入居に繋がる動きをすることができました。

II. 事業の実施状況

1. 令和 5 年度の目標達成のための具体的な行動

①施設・親元等からの自立生活を実現するための第一歩となる体験の場を提供します。

- ・今年度も自立生活体験室では、愛知県地域生活体験モデル事業で参加者数 10 名、名古屋市身体障害者自立生活体験事業で 4 名、短期入所事業に関しては 3 名の利用がありました。その他 3 つの事業に該当しない方も 1 名利用がありました。重度心身障害をお持ちの方や高次脳機能障害が利用される機会がありました。
- ・利用日数に関しては延べ 132 日となり、今年度体験利用者 3 名が福祉ホームへの入居（前年度体験利用者 2 名の計 5 名入居）を果たしました。また、2 名の方が福祉ホームへの入居申請を行っております。また、他部署とも連携し、新規福祉ホーム入居者の生活を支える体制を整えています。
- ・四季体験プログラムを夏、冬、春と実施することができ、プログラム参加者延べ 6 名、サポーター（学生ボラ）延べ 35 名、当事者スタッフ延べ 10 名、他部署スタッフ 6 名がプログラムを行い、身体障害のある学生が「自ら考え、計画し、チャレンジする」体験することで、将来の自立生活へ向けてきっかけとなる場の提供を行いました。
- ・ZOOM を活用し、入所施設入所者月 1 回の相談や遠方の方と面談を行いました。

②関係機関への訪問による本事業の必要性と重要性を伝え、連携を強化します。

- ・名古屋市内 22 カ所、市外 38 カ所の障害者基幹相談支援センター、社会福祉協議会などへ体験室経験者と共に出向き、自立生活体験室及び四季体験プログラムについての案内、利用希望者への周知依頼をしました。
- ・愛知県内の相談支援事業所、社会福祉協議会、親の会など計 11 か所で出前講座（出張説明会）を行い、問い合わせ件数は入所施設 1 件、相談支援センター等 12 件、障害当事者・家族 5 件、障害者団体 3 件、計 21 件の問い合わせがありました。

③次世代移行プロジェクトのテーマ「人を育む」を実現するため、課題を整理し解決するために取り組みます。

- ・出前講座（出張説明会）を行う際、福祉ホーム入退去者、デイセンター利用者がより活躍できるよう、体験談を分かりやすく講話対応者ごとに地域生活をするに至った経緯や実際の生活の様子についてまとめた資料を作成し、当日参加者に配布できるよう事前準備を共に行いました。

2. 年間利用実績内訳

実績 区分	実施件数		延日数		申請者	問合せ	見学	利用相談	事業周知	
	在宅	施設・病院	在宅	施設・病院				訪問・来所	訪問	説明会
市内	5	4	32	9	4	14	4	12	22	4
県内	14	0	82	0	14	18	4	32	20	7
県外	1	0	11	0	3	2	0	3	0	0
小計	19	5	125	9	21	34	8	47	44	11
合計	24		134							

*オンラインの場合もあり

・年間利用実績中のモデル事業件数

愛知県地域生活体験モデル事業	体験利用者数	出前講座件数
令和5年度当初目標	10名	10件
令和5年度実績	10名（達成率100%）	11件（達成率110%）

Ⅲ. 継続課題

- ・施設入所者の体験機会の確保
- ・支援員となる人材の不足
- ・支援にかかる事務量の多さ

マイライフ

I. 総括

利用者が亡くなられたことや他事業所へ移行した方がいたことなどを要因に今年度前半は派遣時間数が減少しましたが、福祉ホーム入居者への支援や退院に伴い医療的ケアが必要な方に対応したことから、少しずつ派遣時間数が増加しました。しかし、年間派遣時間数は昨年度に比べ約5%減少しました。

吸引等が必要になる利用者が増えることを想定し、喀痰吸引等第一号研修及び第三号研修の受講を複数年計画の初年度として進めました。

体験室や福祉ホームの入居者を「地域移行支援」、障害の重度化や高齢化などの課題がある方を「地域継続支援」と位置づけ、それぞれに必要な支援体制を令和6年度から開始するための準備を進めました。

II. 事業の実施状況

1. 令和5年度の目標達成のための具体的な行動

①新たに地域移行を目指す障害者を支援します。

- ・体験室利用者の介助方法の検討・介助者手配 体験室利用者：6名、介助者：61名
- ・体験室利用後の福祉ホーム入居者：1名
- ・福祉ホーム退居者の地域生活への移行支援2名

②障害の重度化及び高齢化に伴う生活の変化に対し、本人の意向を尊重しながら住み慣れた地域で生活ができるよう支援します。

- ・吸引等が必要となった利用者の支援継続の為、喀痰吸引等第三号研修を3回開講しました。
また、突発的に医療的なケアの必要な状況に陥る利用者への対応を想定し、外部団体が実施する喀痰吸引等一号研修の基本研修を4名が受講しました。
- ・人工呼吸器や気管切開により喀痰吸引等の医療的ケアが必要となる利用者（計3名）の退院支援に向けて相談支援や医療機関との各関係機関と担当者会議を頻繁に行い介助体制の整備に努めました。
- ・利用者との意見交換の機会として利用者懇談会等を2回実施し、計6名の利用者の参加がありました。テーマとしては防災や二次障害、それにコロナ禍を経て今後「やりたいこと」や「行ってみたいところ」などについて相互に話しをする、話しを聴く機会を設けました。
- ・40歳以上の利用者を対象に現状の不安や今後の目標についてアンケート調査を行い、当事者同士で話し合える場として座談会「ドーナツトーク」を開催。参加者6名（男性4名・女性2名）自身の身体の変化や体験談など積極的に話され、仲間同士で自由に語り合う場の必要性を再確認しました。
- ・身体状態の変化に伴い介助の課題が徐々に増えてきている利用者に対して具体的な提案をしました。

③障害者の生活を支える為の人材を確保します。

- ・人材を確保するための具体的な行動目標と数値目標に対する成果は以下の通りです。

行動目標	数値目標	成果
授業アピール	45回	48回
オンライン交流会	12回	0回
新規登録ヘルパー獲得	男性:30名 女性:30名	男性:23名、女性:23名 内、既存ヘルパー等の紹介(人づて)18名

- ・デイ利用者や講師派遣の当事者と一緒に授業アピール外の学校や地域でのチラシ配りを行いました。
- ・コロナ禍の落ち着いたきもあり対面でのイベントを徐々に再開する意図のもとボウリング大会や小牧ワ

イナリーで焼き肉交流イベント等を実施しました。一方、リモートでの交流機会としてのオンライン交流会（オンラインブース）は申込みがなく開催がありませんでした。

- ・既存の登録ヘルパーと日頃からの関わりを密にし、関係構築を図ることで、友人や家族など人づてで新規ヘルパー獲得に繋げることができました。

④全ての職員が人を育てる気持ちを強く持ち「教える教わる風土」を作ります。

- ・計 65 回の TAL 面談を実施し、「TAL」を通じて、個々の業務向上を図るとともに、スタッフ間のコミュニケーションの活性化へと繋げることができました。

2. 派遣時間数前年度対比と目標達成率（令和 5 年度目標 175,000 時間）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
令和 4 年度	15,161.0	15,418.5	15,042.3	15,306.0	15,173.0	15,164.3	
令和 5 年度	13,448.8	14,058.0	14,184.3	14,265.0	13,607.3	14,015.0	
目標達成率	7.7%	15.7%	23.8%	32.0%	39.8%	47.8%	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 4 年度	15,675.8	14,847.0	14,584.0	13,842.3	12,536.5	13,692.5	176,443.2
令和 5 年度	14,575.5	13,910.0	14,338.5	13,972.8	13,630.0	14,409.8	168,415.0
目標達成率	56.1%	64.0%	72.2%	80.2%	88.0%	96.2%	-3.8%

※時間数は障害福祉サービス・介護保険法サービス合算です。

Ⅲ. 継続課題

- ・地域移行を目指す当事者のニーズと地域で生活している当事者の高齢化や障害の重度化に伴うそれぞれのニーズに基づいた支援体制の見直しと再構築
- ・上記の目的のためにサマリアや相談支援部門との連携と協力
- ・「TAL」を活用した職員一人一人の役割の明確化
- ・新たな人材確保の手段として、求人サイトの活用と合同就職説明会への出展を実施
- ・新規ヘルパー獲得を目的とした対面での交流機会の創出：目標 60 名（女性：30 名、男性：30 名）
- ・令和 6 年度から義務化となる感染症蔓延防止や事業継続計画(BCP)における取り組みの強化

ヘルパー養成事業 総括

1. 新型コロナウイルス感染対策及び法令を順守し、安心安全な重度訪問介護従業者養成研修を実施します。
 - ・講座開講日の受講生の体調に留意し、密を避け、検温・消毒・換気の徹底等感染対策を講じて、年間計画沿った講座の実施を行いました。
2. 重度訪問講座は 120 人を養成します。
 - ・延べ 12 回開講し、64 名養成しました。
3. 喀痰吸引等第三号研修の定期的な実施及びホームヘルパー現任研修を開催します。
 - ・ホームヘルパー現任研修を 10 月 7 日・14 日・21 日に開催し、23 名に名古屋市発行の修了証を発行しました。

マイライフ西

I. 総括

新規採用者と職歴が浅いスタッフが多いため、支援の質の向上と事業所としての体制を整えることに主軸を置いた一年としました。また、3名の新規嘱託雇用を行い派遣時間の安定に取り組みました。しかし、新規採用者を含む3名の退職者が出るなど課題の残る年となりました。

地域以降の実績として1名の名古屋市在住当事者をサマリア、マイライフ、生活塾に協力頂きながら3月より福祉ホームの入居へ繋ぎ、ヘルパー派遣を行っています。福祉ホームに入居していた1名の地域移行も関係各所と協力しながら3月に名古屋市内のアパートへの転居支援、ヘルパー派遣体制整備を行う事が出来ました。

II. 事業の実施状況

1. 令和5年度の目標達成のための具体的な行動

①障害者がより自分らしい生活を構築できるよう、個々にあった支援体制を確立します。

★自立生活開始に向けた支援

- ・体験室利用を経た福祉ホーム入居 1名（3月）

【支援内容】ヘルパー体制整備、体験室実施（5月、1月～2月）、行政との時間数交渉サポート

- ・福祉ホームから一般アパートへの転居支援 1名（通年） ※2024. 04. 02に転居完了

【支援内容】ヘルパー調整、アパート探し、転居費用の金銭管理、住宅改修サポート

- ・県内の入所施設利用者への福祉ホーム入居に向けた支援 1名（通年）

【支援内容】入居後のイメージ作りのためのサポート3回（外出支援）、家族とのオンライン面談サポート、障害福祉サービス利用のための行政交渉サポート

★地域生活継続のための支援

- ・障害の進行や長年ヘルパー利用する中で疲れから起こる、登録ヘルパーとのトラブルが発生した利用者に向け、利用者担当だけではなく経験値のある管理者を追加配置することにより、きめの細かい支援体制を整えました。併せて加齢により自身で介助を伝えることが難しくなってきた利用者と話し合い、介助動画を作成するなど自立生活における本人の負担を共に減らすことが出来ています。

【支援内容】管理者を含めた定期面談（月1～2回/3名） 65回

職員と利用者間の情報共有体制作り（2名） オープンチャット、介助動画作成

②事業所内の役割に合わせた人材育成を実施します。

- ・月2回のMTを先人の知識や経験、他部署の取組みを聞く場に設定、障害がある人と関わるときの姿勢や部署間の繋がりを学べる機会とし、普段の業務へ生かすことができています。

【AJUの取組み、障害当事者の経験や障害者運動の実践を学ぶ場を設定】 9回

- ・マイライフ西の方向性を定めるため、5ヵ年計画を作成し法人内含め方向性を共有しました。

【マイライフ西の方向性で行うべき取組みについての話し合い】 15回

- ・TALにおける上長役を主任、リーダーにも割り振り、適切なアドバイスが出来る体制に整えました。男女各MT内（毎月）においても進捗や困りごとを相談、把握しあう等、チームで取り組みアドバイスしあう関係の構築が出来ました。

③安定したヘルパー派遣を行うための体制整備を行います。

- ・障害者の地域生活を支えるヘルパー確保目標 50 名（男性 26 名、女性 24 名）に対し、新規登録者数 35 名（男性 21 名、女性 14 名）と人数では届きませんでしたが、嘱託職員 3 名の確保により補えています。

【学生向け】学生交流会 3 回（対面）、授業アピール 17 回（6 校 11 学部）、卒業生を祝う会 1 回

- ・同朋大学との包括的連携協定を締結し、キャリア支援講座にて AJU の取組と職員募集の講話をしました（6 月、11 月）。職員獲得には至りませんでしたが、登録ヘルパーの確保を行えています。

④障害者支援として、自立生活センター・生活塾と協力関係を組み支援を行います。

- ・障害者の自立生活の啓発とヘルパー確保の人集め、スタッフ間の関係構築目的に 9 回のイベントを共同で実施しました。
- ・共通した目的意識と次世代当事者リーダー育成のための意識醸成の場として、生活塾 MT を共同で 3 回開催しました。
- ・障害者支援の啓発と福祉の職場体験の取組みとして生活塾と協力し、地域の中学高校生の体験実習を受け入れました。西陵高校（8 月）、山田中学校（1 月）

2. 派遣時間数前年度対比と目標達成率（2023 年度目標 82,400 時間）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
2022年度	6,834.3	6,966.0	6,846.0	6,914.5	6,161.5	6,067.0	
2023年度	5,829.5	6,084.0	5,954.0	6,157.0	6,152.5	5,973.0	
目標達成率	7.1%	14.5%	21.7%	29.2%	36.6%	43.9%	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022年度	6388.0	6100.0	6656.0	6543.5	6133.5	6800.5	78410.8
2023年度	6237.0	6057.5	6140.0	5922.5	6069.0	6591.0	73167.0
目標達成率	51.4%	58.8%	66.2%	73.4%	80.8%	88.8%	

- ・新規利用契約者 2 名（8 月、3 月）
男性 1 名…通学支援のための移動支援
女性 1 名…サマリアハウス入居に伴う重度訪問介護ヘルパー利用
- ・利用解約者 2 名（11 月、3 月）
男性 1 名…11/30 に永眠されました。
女性 1 名…本人の意向による他事業所への移行のため契約解除しました。

3. マイライフオリエンテーション（マイライフ・マイライフ西共通）

- ・4 月～3 月受講者：71 名 内容：基礎的な知識と技術を身につける講座 ※Web、DVD 受講にて実施。

Ⅲ. 継続課題

- ・ヘルパー確保目標 48 名（男性：28 名 女性：20 名）
- ・人材確保のため、外国籍職員雇用の検討。
- ・事務所移転並びに新規事業実施検討（地域活動支援センター）
- ・職員確保 2 名以上（男性 1 名 女性 1 名）
- ・役職における役割責任の明確化と付与。
- ・事務作業を減らすための取組み（ICT の活用）

自立生活情報センター サポートJ

I. 総括

昨年度に続き年間5回のお出かけ企画が達成できました。そこからの交流・切磋琢磨で「サロン立ち上げ」も動き、当事者同士の「集い・相談・学び」がその次の具現化を育みました。当事者職員の地縁拡充も進みそこに当事者も絡めての「地域交流」の道筋が見えてきました。

II. 事業の実施状況

2. 目的を達成するための目標

- (1) 新たな当事者の仲間を増やし、当事者同士の「集い・相談・学び」の体制を一步ずつ進めます。
- (2) 社協やその他の社会資源（他の地活や子ども食堂、地域サロン）との地域交流を進めて活きます。
- (3) 「人を育む」を実現する為、事業計画に基づき、利用者・関係の当事者と相談・連携して職員を含めた各位の向上を目指します。

1. 令和5年度の目標達成のための具体的な行動

- (1) 新たな当事者の仲間を増やし、当事者同士の「集い・相談・学び」の体制を一步ずつ進めます。
 - ・当事者職員就任にて、当事者に対して懇談・個別勉強会・IL(向き合い)などを毎月数回開催しました。
 - ・地活利用者のサロン立ち上げに対して、人脈広げやチラシ作成などで地活職員も協力しました。
 - ・「お出かけ企画」は計5回、当事者延べ21名が参加。常連の1名が故郷東北での事業立ち上げで今年度で離れましたが、2年余続けた同企画での交流・切磋琢磨は唯一無二の経験となりました。
- (2) 社協やその他の社会資源（他の地活や子ども食堂、地域サロン）との地域交流を進めて活きます。
 - ・当事者職員が地域サロンとの繋がりで、土岐市特別支援学校「全職員」に対しての講話を開催しました。
 - ・昭和区・中区の福祉実践教室は社協担当者との連携でより良い内容に変更できました。
- (3) 「人を育む」を実現する為、事業計画に基づき、利用者・関係の当事者と相談・連携して職員を含めた各位の向上を目指します。
 - ・わだちコンピュータハウスの若手にOBの地活利用者が勉強会(講話)を開催しました。

2. 講師派遣数と勉強会数

	講師派遣数	勉強会	受講者数		講師派遣数	勉強会	受講者数
4月	1	3	49	10月	8	5	14
5月	1	3	29	11月	17	4	17
6月	8	2	103	12月	3	3	11
7月	4	1	4	1月	1	7	24
8月	8	2	6	2月	3	6	146
9月	3	4	35	3月	10	3	20
計	25	15	226	計	42	28	232

III. 継続課題

○派遣講師の育成

- ・地域ネットワーク拡充に対しても個別の勉強会などで人材育成を進めていきます。

わだちコンピュータハウス

I. 総括

令和5年度は、生産活動においては障害福祉計画等策定年度ということもあり、計画を4件受注できたことに加え、中部国際空港、名古屋駅乗換空間、愛知国際アリーナ、県立高校校舎工事UD意見聴取、ジブリパークなど公共施設のユニバーサルデザイン業務といった大きな仕事から、継続的に取引をしているお客様からの小さな仕事まで、依頼のあった業務をわだち一丸となってお受けすることで、例年以上の収益を得ることができました。また、営業戦略会議が行った「事業仕分け」を通じて、今までの仕事を見直し、新しい仕事の創出のため、今後10年のわだちの在り方を検討する会議を来年度以降開催することをめざしています。

施設運営面では新規所員2名の入所を受け入れましたが、わだちを草創期から支えた利用者が2名、若手1名の計3名が退所され、利用はあまり伸びませんでした。その反面、精神発達障害のある方や高齢期を迎えた方からの問い合わせは伸びており、わだちが今まで主要メンバーにしてきた「重度四肢麻痺の車いすユーザー」という“所員像”から脱却していく必要性を感じています。

II. 事業の実施状況

1. 令和5年度の目標達成のための具体的な行動

①所員・スタッフが一致協力して、前年度比同水準以上の売上高を目指します（目標 77,690 千円）

（「2. 事業の達成状況」（1）参照）

- ・障害福祉計画策定委託業務について、昨年より細かく経費や利益率を計算して4本受注することができました。
- ・UD業務について、中部国際空港やリニア課といった以前から関わりのあるお客様以外に、愛知県教育委員会など、今まで関わりのなかったお客様からの依頼を受けることになりました。
- ・昨年度に引き続き9月から10月までの日程でJICA中部「障害者就労促進研修」業務を行いました。インセプションレポートの発表やアクションプランの発表について、ZOOMでのオンライン配信を行いました。
- ・上記の努力も実り令和5年度の売上高は88,614万円（目標達成率114.1%）でした。

②適正な収入確保策に取り組み、中長期的に安定した施設運営基盤の強化を目指します。

（「2. 事業の達成状況」（2）参照）

- ・4月、5月と長年わだちを支えてきた初期からの所員2名が退所となりました。
- ・9月より、男性所員が1名新規利用に結びつきました。以前よりわだちにアルバイトとして関わっていた方で、即戦力として期待して受け入れました。
- ・3月末、若手所員1名が退所となりました。一般就労をめざした退所で温かく送り出しましたが、今の若手所員のニーズは何か、わだちで“定年”を迎えることを求めているのかについて、検証が必要です。
- ・3月、高齢になって障害を負った方1名を所員として受け入れました。それ以外にも精神発達障害のある入所希望者からの問い合わせが増えています。今までの所員像から脱却して、新しい仕事を

創出する必要性を感じています。

③所員が長く安定して働けるように、所員自身によるワークライフマネジメントをサポートします。

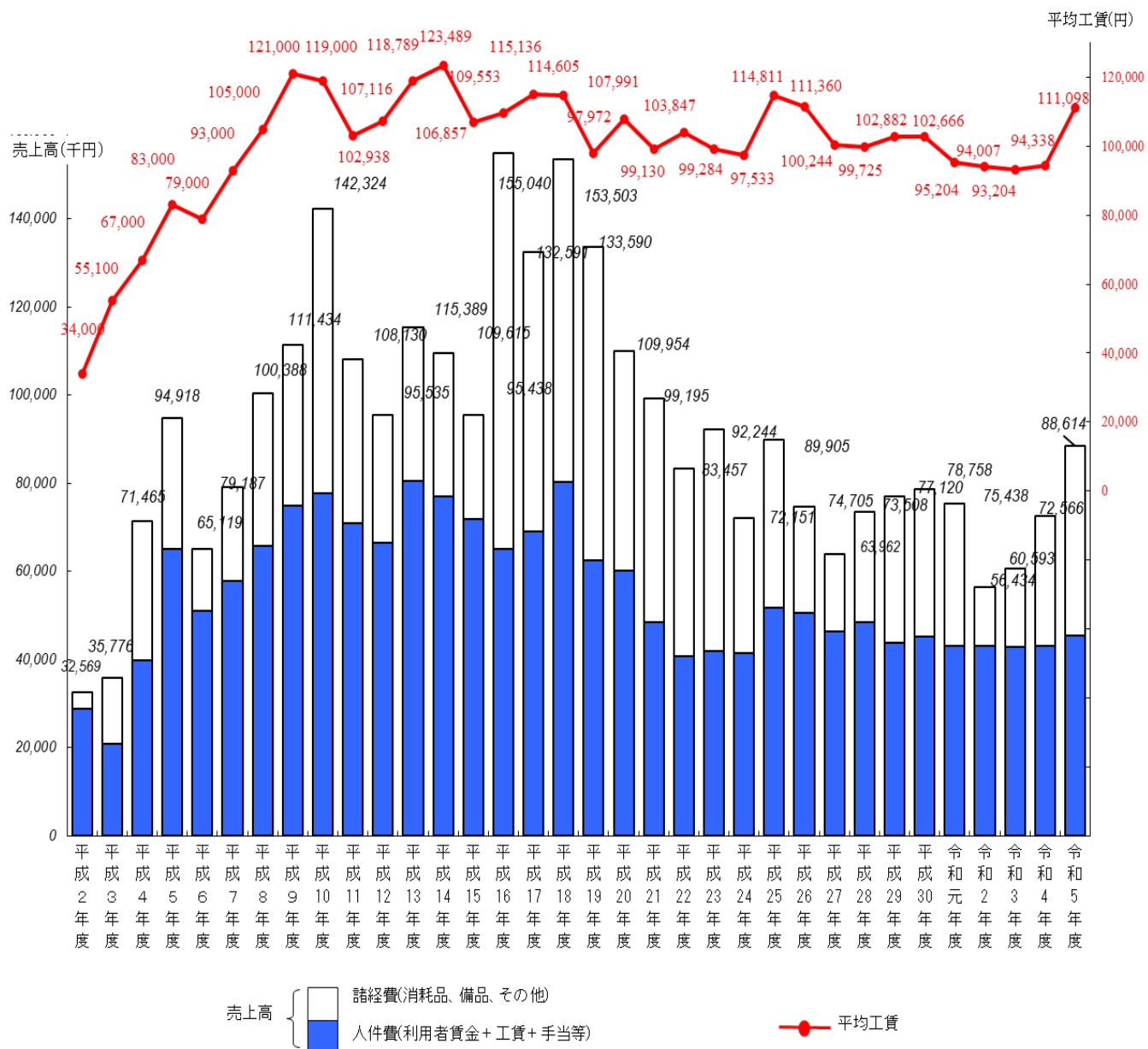
- ・名古屋市で「新型コロナウイルス感染症拡大防止」を理由とする在宅申請をしているA型・B型の人については、9月末をもって在宅支援の支給決定が廃止されましたが、今後も在宅就労を希望する人が引き続き利用できるよう、手続きを進めました。

④将来のわだち（自立の家）を支えていける次世代を中心にした人材育成及び確保に取り組んでいきます。

- ・わだちの20代、30代のメンバーが立ち上げた「MIRAIプロジェクト」が中心になり、講師派遣やスマホ何でも相談など、新しい業務を積極的に開拓しています。
- ・令和5年度末にそれまで同プロジェクトを率いてきた所員が退所に至りましたが、今後も引き続きわだち内で新しい取り組みにチャレンジしています。

2. 事業の達成状況

(1) 売上高と平均工賃



(2) 利用実績

延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
就労A型	141	150	169	154	133	154	145	128	147	130	140	150	1,741	145.1
就労B型	315	316	355	311	285	316	338	332	334	290	317	342	3,851	320.9
生活介護	77	71	81	71	63	83	90	75	91	64	63	66	895	74.6
計	533	537	605	536	481	553	573	535	572	484	520	558	6,487	540.6

開所日	24	24	26	25	21	24	25	24	24	22	23	25	287	23.9
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	------

一日あたりの平均利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
就労A型	5.9	6.3	6.5	6.2	6.3	6.4	5.8	5.3	6.1	5.9	6.1	6.0	6.1
就労B型	13.1	13.2	13.7	12.4	13.6	13.2	13.5	13.8	13.9	13.2	13.8	13.7	13.4
生活介護	3.2	3.0	3.1	2.8	3.0	3.5	3.6	3.1	3.8	2.9	2.7	2.6	3.1
計	22.2	22.4	23.3	21.4	22.9	23.0	22.9	22.3	23.8	22.0	22.6	22.3	22.6

Ⅲ. 継続課題

- ・UDや講師派遣など、わだちが強みとする業務が担える人材の発掘・育成
- ・新規事業の創出
- ・継続的に所員が通所できる仕組みづくり
- ・新しい所員に見合った仕事の創出

ピア名古屋

I. 総括

ピア名古屋に通所する仲間に対しての生活相談や日中の活動における支援はおおよそ目標を達成することができました。一方、福祉用具の売上においては、年度当初は物価高騰の影響から厳しい予想をしていたものの、新規車いすや修理の受注を数多くいただけたこともあり、想定を上回る成果を上げることができ、非常に安定的な事業運営を進めることができた年となりました。

II. 事業の実施状況

1. 令和5年度の目標達成のための具体的な行動

＜達成度をA～C（高評価→低評価）で自己評価＞

- ①-1 仲間のニーズキャッチを最優先とし、日々のコミュニケーションを意識した行動をする【A】
 - ・メンタルに不安を抱える仲間へは、通所時に必ず傾聴を基本とした話し合いの機会を設けました。
 - ・現状の生活課題への解決や生活変化に対する新しい取り組み、将来生活に向けた準備の提案といった生活づくりの相談を延べ21件実施しました。
- ①-2 法人内に留まることなく、他サービスや家族も巻き込んだ支援の輪を築くことで、仲間の自己実現に向けた環境を強化する【B】
 - ・6つの他機関（相談支援事業所(3事業所)、訪問看護、自立生活体験室、サマリアハウス、ヘルパー事業所、家族）と協力し、支援体制を構築しました。
- ①-3 医療的な分野も含めた障害の重度化に対応できるよう、スタッフのスキルアップに努める【C】
 - ・喀痰吸引等研修（第3号研修）を1名が受講し、次年度実施に向けた準備年としました。
 - ・福祉用具の知識向上に向けた外部研修（ウェルファン研修会・福祉用具プラザ講習会）に参加しました。
 - ・障害の重度化に関する研修受講が少なかったため、次年度は外部研修一人1つ以上受講を実行します。
- ②-1 仲間一人ひとりの役割を明確化し、責任意識を持って仕事に取り組んでもらうようにする【A】
 - ・仲間の役割を年度初めに明確化し、毎週おこなう仲間ミーティングで業務の進捗を確認しました。
- ②-2 仲間の個性、障害状況、作業習得度に合わせた働き方ができるよう、改善を繰り返しながら仕事を提供する【A】
 - ・主な改善点：仲間と職員との事務作業分担、営業・配達の担当見直し、メンテナンス価格の見直しに伴うチラシのリニューアル、事業所説明用のチラシ作成、事務チェック体制の変更、作業理解度を上げるために個人に合わせた説明方法の導入しました。
- ③-1 月平均利用数7.5名、福祉用具年間販売48,976,556円を追求する【A】
 - ・下記表にて記載。
- ③-2 事務所内の整理整頓をして、新しい仲間も含め、通いたいと思える環境を維持する【B】
 - ・『整理・整頓・清掃』を年度目標として事務所内に掲示、事務所作業場のレイアウト変更、解体部品の仕分けと保管場所の確保、廃棄物保管期限の短縮、ゴミ分別標識の作成、保管書類の分別、事務所内ワックスがけ（3月末）を実施しました。
 - ・事務所の各エリアを職員の誰が担当するのか不明瞭であったため、次年度から事務所内を区分けした担当制にして改善を図っていきます。
- ③-3 事務を中心に担えるスタッフ（1名）を採用する【A】

- ・6月から女性アルバイト1名を採用。事務および生活支援体制強化に繋がりました。

③-4 事務作業のヒューマンエラーゼロを目指す【C】

- ・2重振り込み及び赤伝票防止の対策として、1つの業務に仲間1名→もう1名の仲間→スタッフの3名でチェックする体制を構築しました。
- ・6月から加入したアルバイトに請求関係の書類チェックを任せ、確認レベルを強化
- ・請求書の確認方法として、確認者の捺印を導入しました。
- ・請求事務の流れを適正に完遂するため、当日仲間に依頼し作成する書類は、当日中にスタッフが確認し請求漏れを防ぐよう対処しました。

2. 利用実績(③-1)

	開所日	登録者数	来所のべ人数	平均利用者数	食事サービス
今年度実績	292日	17名	2,197人	7.5名	1,221食
昨年度実績	291日	18名	2,167人	7.4名	1,165食

3. 福祉サービス及び福祉用具実績(③-1)

	今年度実績	目標金額 ※1	達成率	昨年度実績
介護給付費等補助金	30,523,647円	30,300,000円	100.7%	29,073,294円
重度心身障害者受入補助金	6,451,200円	6,404,000円	100.7%	6,989,728円
福祉用具売上額	50,001,403円	49,606,000円	100.8%	42,324,764円
工賃支払額	5,687,985円※2	6,183,950円	91.9%	6,067,051円

※1 目標金額は当初予算から修正した値(介護給付費▲1,200,000、重度心身▲296,000、福祉用具△629,444)

※2 工賃支払額は利用予定回数の変更による利用率の減少に伴い、当初の支払い額よりも減少しています

Ⅲ. 継続課題

令和5年度からの課題	改善にむけた令和6年度の具体的行動
利用者の支援体制の整備	ピア単独では解決できない利用者(仲間)の課題には、主導的呼びかけにより支援の仲間を増やしていく
障害の重度化に対する職員のスキルアップ	法人内の研修・訓練に加え、専門的知識向上のための外部研修を一人1つ以上受講する
事務所内の整理整頓	事務所および備品に対して、エリア担当(15エリアに区分け)を決めて整理整頓を毎月チェックする
事務作業のヒューマンエラー対策	・仕事の進捗を日常のコミュニケーションやミーティングで報告と分析を実施しチェック機能を強化する ・トライ&エラー&フォローを繰り返し改善への意識を高める

小牧ワイナリー

I. 総括

所員1名の増加に留まり、目標とした39名体制には至りませんでした。全体の収支に於いても、昨年度同等比を推移した為、3%の改善値に届かず、2%に留まりました。新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、イベント開催の緩和、団体様の来客数の増加が兆しとなり、売上の向上に繋がりました。生産活動（葡萄栽培、ワイン醸造、商品開発、ワインラベルの一新、等）における方向性や改善策についても対策を施しました。

II. 事業の実施状況

1. 令和5年度の目標達成のための具体的な行動と進捗

①健全な葡萄栽培に取り組み、生産の安定や品質の向上を目指す（収量目標：小牧7.0t、多治見2.0t）

➡昨年度より約10日早い萌芽。樹木の健全な生長を図る為、余分な芽や病害発生の恐れのある弱い芽を欠く作業、除草作業、つる切り、花穂調整、花かす除去、誘引作業、副梢管理、摘粒、等々に多くの時間を費やしました。病害対策の農薬散布（10~14日間に1回の間隔、生育期間中に合計10回）、及び、「笠掛け」「袋掛け」（雨除け、日除け）を実施（約3万7千枚を作業）。生育向上の対策として、水捌けの悪い圃場の水抜き整備（暗渠、明渠）を施し、病害発生の軽減や葡萄の品質向上を図りました。鳥獣害対策として、防鳥防獣ネット張り、電気柵を設置（ワイナリー北側圃場、約3,500㎡）。電気柵の効果で畑の中まで害獣に侵入される事が無くなり、被害の軽減に繋がりました。今季の収穫量は8.9t（昨年度比の約1.2倍）。生育状態の確認と収穫時の段取り、収穫後の選果作業の内容を共有しながら実施。収穫期に降雨量が少なかった為、赤葡萄は樹木に実らす時間が長く、成熟が行き届いていると期待。畑作業に従事してもらった農業ボランティアの募集を進めた結果、外部支援者（総勢30名）が集まりました。

②美味しいワイン造りに取り組み、生産の安定や品質の向上を目指す（生産本数目標：15,000本）

➡葡萄栽培者、ワイン生産者に対する勉強会やワイン学会に参加、及び、外部視察を通して、近年の葡萄栽培における高温や多雨による影響（着色不良、品質低下）から脱却の可能性のある副梢栽培（研究報告）、乳酸菌発酵による醸造方法の役割と改良（香り、味わい）、新規の発酵酵母についての効能（香り、味わいの抽出、品種特性の傾向、等）、暑い地域の葡萄栽培の留意点、生育の傾向、醸造技術や特性（色調、香り、味わい、等）の情報交換を図り、学びました。及び、今季の醸造は、香り、味わいの品質向上、等を視野に入れ、不快な香りを抑制してくれる発酵助成剤（栄養剤）の使用、葡萄本来の香りや味わいを引き出してくれる新規の発酵酵母を使用しました。また、酸化防止剤（亜硫酸塩）の使用量も葡萄の健全状態に応じて変化させ、糖酸度分析や濾過製法を取り入れながら、品質の安定・向上を図りました。年間を通して、仲間と一緒に醸造（葡萄の破碎作業、瓶詰め作業、ラベル貼り作業）を実施。新商品（2022年産）の赤・ロゼ・白のワインについて、美味しくなったと評価して頂く声もありました。毎年の継続目標である健全な葡萄栽培、収穫後の腐敗果や未熟果の選果作業、健全な発酵を促す、といった取り組みが、今年度も少しずつですが出来上がったワインの品質、改善の気配を実感しました。

③消費者に満足感を提供できるワインの商品開発に時間を確保して取り組み、特長ある商品を販売する

➡成熟に期待が出来た赤葡萄は、香り、味わいの品質向上に繋がる醸造方法（例：セニエ）に挑戦。これまで表現が出来なかった濃い目の赤ワイン（例：ミディアムボディ）を目指しました。外部からの原料葡萄であるデラウェア種（加工用・着色有・種有）を数日間の醸し発酵、圧搾しながら、

オレンジワインの醸造方法にも挑戦しました。新たに、ボトル栓をスクリューキャップ式に挑戦。今後の商品開発の一つとして努め、更には想いの伝わる特徴についても考えていくため、新ワイン名称、新ラベルデザイン、等を一新する検討会議を実施。どのような想い、コンセプト、等で進めて行くべきか、デザイン業者にも相談しながら進めました。小牧市役所「東部まちづくり推進室」と共に、ワイナリーで排出される葡萄の搾りカスの再利用、フードロスを目指して、産官学連携プロジェクトに参加。小牧市、名古屋経済大学、小牧市東部地区のパン工房（パンベル）、ワイナリーの4者が連携して、フードロス商品・レシピの開発、活用や発信を目的。最終的に出来上がった商品・レシピをワイナリー店頭や喫茶メニューに取り入れる事によって、新たな営業戦略の1つと進めました。

④魅力を発信するショップ、カフェ、外部出店を目指し、沢山のお客様に来てもらい、知ってもらおう

➡春の葡萄酒まつり（5月3日・4日・5日）、秋の収穫祭（9月23日）、AJU ワインフェスタ in 多治見修道院（11月18日）を開催。開催の目的、企画設定、規模縮小、収支収益率、等々にも一新を図りながら開催しました。ショップでは様々な季節催事を実施。カフェでは季節メニューや週末限定の生絞りぶどうジュースを提供しました。以前から検討していたショップ・カフェのリニューアルについて、本格的に始動できるように2月から約1ヶ月半のカフェ休業を実施。その期間に喫茶メニューの視察や試作を繰り返し、毎週のMTを通して話し合いを重ね、進めました。

⑤HP、SNS 等の情報充実を図り、ワイナリー情報の周知、及び、商品の魅力を積極的に発信する

➡SNS や HP の更新に力を入れ、新商品のワインや土産品、季節催事や季節の喫茶メニューを紹介。HP、特にオンラインショップではショップの様子を多く掲載し、販売している商品が分かるように改善を試みました。SNS ではカフェメニュー（季節のパスタランチ、季節のドリンクメニュー）を中心に更新しました。閲覧者に事業内容や様々な想い、商品の充実、及び、魅力的な商品案内に取り組みながら、もっと知りたい、行ってみたい、購入してみたい、働きたい（通所したい）、と思えるような事業の強みを情報発信して、売上の向上にも繋げました。樹の会会員様、販売先顧客（個人、企業、団体、等）、各種取引先へ「春の葡萄酒まつり」「御中元（サマーギフト）」「秋の収穫祭」「AJU ワインフェスタ」「御歳暮（ウィンターギフト）」のDM 郵送しました（各回約 650 件）。

⑥仲間と共に働く時間、チームワークと報・連・相を意識し、楽しく、幸せに働ける職場を目指す

➡体験実習の要望に合わせて、年間を通して体験実習を実施（合計、男性 4 名、女性 2 名）。小牧市周辺の福祉事業所、社協、学校に協力を頂き、葡萄酒祭りや収穫祭への出店依頼、ボランティア依頼を実施。体調不良等の理由から畑作業に従事できない仲間も増えて来ている傾向がある。室内作業は時期によるバラツキがある為、満足に室内作業が提供できない日もあり、作業内容の再検討。及び、ショップ・カフェを営業しながらの支援スタッフの配置等、課題が出て来ています。所員の体調に注意しながら、事故や病気を未然に防ぐ支援に努め、猛暑日の畑作業は午前からの短時間作業。午後は室内作業に変更して、仲間の熱射病対策や体調面の安全を考慮しました。所員 1 名（男性、身体障害）が AJU の夏季体験・冬季体験プログラムに参加。「同世代の学生たちや障害当事者の先輩の皆様と沢山のコミュニケーションを取る事で出来て楽しかった。駅員や介助者（サポーター）に、お願いしたい事をどのように伝える事が良いのか、伝え方が難しかった。」との感想。支援者とともに買い物、調理、忘年会など、ワイナリーでは出来ない体験をする事が出来ました。一人暮らし体験を希望した所員（男性 1 名、女性 1 名）が愛知県地域生活体験モデル事業（サマリアハウス）の体験室を利用しました。一人暮らし入居者からの話、体験室のスタッフと買い物や料理作りを経験。初めての事ばかりで疲れた様子も見られましたが、充実した、という声も上がり、進めて良かった一面でした。今年度末現在、所員 36 名にて稼働しました。

【利用実績／売上状況】

自立支援給付費収入

<就労継続支援 B 型> 現員 (B 型 30 人)

月／ 利用人数	開所日数 ／利用者 出勤日数	平均 出勤日数	平均 利用者数	延べ利用者数 ／前年度比	自立支援 給付費収入 ／前年度比
合計	337 日 ／331 日	17.6 日	19.1 人	6,301 人 ／94.77%	50,788,098 円 ／94.45%

<生活介護> 現員 (生活介護 6 人)

月／ 利用人数	開所日数 ／利用者 出勤日数	平均 出勤日数	平均 利用者数	延べ利用者数 ／前年度比	自立支援 給付費収入 ／前年度比
合計	253 日 ／250 日	11.2 日	3.3 人	805 人 ／130.89%	9,370,606 円 ／122.07%

利用者の状況／工賃の支払額

利用者数 定員 40 人 (生活介護 6 人／B 型 34 人) ／現員 (生活介護 6 人／B 型 30 人)

工賃支払総額／前年度比	19,373,386 円／103.35%
-------------	----------------------

ワイン等の売上状況

年間売上目標に対する当月までの売上額 (単位：円)

売上額：37,503,875 円 (売上総額 38,046,493 円、値引等 -542,618 円) 目標達成率 98.69%

店舗：カフェ・ショップでの対面販売 店舗外：電話・インターネットの通信販売、卸、催事等

合計売上額／前年度比	年間目標額	目標達成率	備 考
37,503,875 円 ／105.31%	40,750,000 円	92.03%	目標
	38,000,000 円	98.69%	補正

Ⅲ. 継続課題

- ・健全な葡萄栽培に取り組み、生産の安定や品質の向上を目指す
- ・美味しいワイン造りに取り組み、生産の安定や品質の向上を目指す
- ・特長あるワインの商品開発に取り組む
- ・沢山のお客様に来て頂けるカフェを目指す
- ・SNS の掲載内容を充実させる
- ・仲間と共に働き、作業の充実を図る

昭和区障害者基幹相談支援センター

I. 総括

これまでの取り組みを踏襲する形で各事業所や地域の団体への挨拶回りなどを行ってきました。令和5年度においては福祉サービス事業所ガイドブックを作成した事もあり、ガイドブックの配布を兼ねた訪問を多く行いました。新規事業所の開設についても挨拶に出向き、利用者の紹介に繋げる、協議会への参加を依頼するなど関係作りに取り組みました。SNSでの情報発信についても継続的に行った他、今年度はInstagram上で掲載する事業所を募集するという新しい試みも行いました。一方で、地域の社会資源との繋がり作りにおいては業務に追われてしまい、中々取り組む事が出来ないままとなりました。計画相談では新規利用者の受け入れを増やしてきた一方で、自然減による解約などもあり、新規増加数については目標を達成する事が出来ませんでした。

II. 事業の実施状況

1. 令和5年度の目標達成のための具体的な行動

- ①今年度つながりが薄かった事業所など、職員各自が個別の目標をもって関係づくりをしていきます。
毎月のスタッフミーティングにて報告していきます。
 - ・事業所ガイドブックの配布に合わせての事業所訪問や、事業所紹介の為の訪問など、関係づくりに取り組んできており、スタッフミーティングでの共有も行ってきましたが、それ以外においての個別の目標設定を行う事が出来ませんでした。
- ②Instagramは事業所紹介の以外にも情報提供内容を増やします。SNSメディアでの発信をできる職員を増やします。各種イベントや行事に出向き対面で伝えていきます。
 - ・Instagramでの事業所紹介や基幹センターの日常に関する投稿を継続的に行った他、協議会でのイベントだけでなく、地域のイベントなどの情報発信を意識的に行いました。継続的に行う事でフォロワー数も着実に増えております。一方で、SNSメディアでの発信ができる職員を増やす事については具体的な取り組みを行う事が出来ませんでした。
- ③地域とのつながりが薄い利用者をピックアップして、民生委員と顔の見えるつながりをもちます。認定調査で関係ができた利用者で、必要のある方をつないでいきます。担当する利用者の支援の視点において「地域資源」を入れた計画等作っていきます。
 - ・民生委員をはじめとする地域資源との繋がりを作っていくという活動については、個々の業務に押されて中々手を付ける事が出来ませんでした。が、ボランティア希望の大学生を昭和区内のボランティア団体へ繋げるといったコーディネートを行いました。
- ④相談受け入れ体制について、これまでの体制を変更し、熟練者が対応について判断をしていきます。
実際に活動した内容に即した加算請求ができるようにします。そのために個々の相談員が請求情報に精通できるようにします。
 - ・新規契約者 26 件 解約者 14 件 年間 12 件増の 63 件。年間契約数は昨年より 12 件増となりました。新規 26 名の大半は、相談サマリア職員休職に伴う受け入れです。解約理由としてはサービスの利用停止、自然減、セルフプランへの移行、特定相談支援事業所への移行などになります。

2. 実績報告

1. 利用者数

	実人数	身体	重心	知的	精神	発達	高次脳	難病
障害者	166	74	2	33	67	4	3	1
障害児	13	2	0	4	0	7	0	0

2. 相談件数

訪問	来所	調査
1626	2574	227

3. 計画相談

契約者	計画	継続
63	68	228

4. 自立支援連絡協議会

部会	研修会等	その他
34	4	10

Ⅲ. 継続課題

協議会関連団体、事業所回りについては、今年度回り切れなかった分、課題などの聞き取りが出来なかった事業所について次年度へ継続していきます。どうしても取り組みやすいところを回る傾向、スタッフ間でも意識の違いがみられ、次年度は各自が目的意識をもって取り組んでいくことが課題です。

また、事業所以外の社会資源との関係作りにおいても、計画通りに手を付ける事が出来なかった現状を踏まえて、次年度においては具体的な行動に移していけるよう取り組んでいきます。相談者と地元をつなぐ橋渡しをすることで、他区と協同して市全体の地域課題として吸い上げていく事を目指します。地域団体、地元イベント等への参加も、継続して取り組みます。

経営健全化に向けては、引き続き積極的に新規受け入れ、並びに現契約者への手厚い支援を継続し収入増を目指します。

相談支援事業所 サマリアハウス

I. 総括

「当事者主体」の原則に立ち、希望や不満に丁寧に耳を傾けながらサービス利用計画の立案、調整にあたることを実践してきました。中には強い精神不安やコミュニケーション障害から意思を思うように発信できず、周囲との認識のずれが生じることもあり、聴き取りの仕方を見直したり、先輩相談員に報告・相談をすることで軌道修正した場面もありました。大きな変化としては、相談員1名の異動で契約者大幅減。その後、取り戻そうと新規を積極的に受けてきましたが、20増にとどまりました。内訳は身体7（視覚、聴覚含む）、知的6、精神4、児童3でした。その他、解約の中にはセルフへの転向や、一般就労にこぎつけサービス利用終了になるなど、うれしい知らせもいくつか受け取りました。

II. 事業の実施状況

1. 令和5年度の目標達成のための具体的な行動

(1) 主体性尊重を主眼にした計画づくりをしていきます。

- ①計画の様式やフォーマル・インフォーマルにこだわらず、本人のしたいことや到達目標、こだわり（選べないとしたらそれはなぜか）など、一人ひとりに合わせた内容でききとりをします。
- ②ききとりの際は、話しやすい環境や言葉選び、話し方の速度等に意識を向けます。話したくなるような時間空間を目指し、本人の新たな一面を引き出します。
 - ・ご本人からの依頼の中身だけでなく、そこに至った経緯も掘り起こしていくと、周囲にかけられた言葉が過分に影響していることがわかったため、過不足ない支援を心掛けました。
 - ・福祉ホーム入居前の方の事業所調整・顔合わせ・介助デモを行いました。ご本人へ不安軽減を意識したやり取りを心掛け、不安解消に努めました。
 - ・コミュニケーション障害の方。ご本人が発信した内容と事実が異なっていることが発覚。聞き出し方や確認が不十分だった上、関係機関への周知の仕方にも問題があったことに気づかされ考えさせられる機会がありました。

(2) 主体性の重視を関係機関にも伝え、連携した支援で生活を支えます。

- ①新たにききとった希望や目標・課題について関係機関と共有、具体的な支援にむけ連携します。
- ②関係機関から出た意見もまた、本人にこまめに報告し、その都度振り返りをします。
- ③一人ひとりにつき、訪問や電話等ききとりの回数を検証します。安定期、不穏期の傾向を把握し緊急・集中支援にも随時対応します。
 - ・退院後、サマリアハウスで生活されることとなった方。医療機関・関係機関とこまめな情報共有と緊急時の対応について、改めて見直しを行い、支援の方向性の統一を図りました。
 - ・65歳到達で介護保険へ移行の際に不穏状態になられた方へ、認定調査の立ち合いや電話回数や訪問回数を増やし傾聴の機会を増やしました。
 - ・談笑の機会を持つため、毎月訪問をしたことで、発言が増え、明るくなっていく姿を見ることができました。

(3) 学習や研修の機会を積極的に持ち、相談員各自が知識の幅を広げます。

- ①案内のあった研修や協議会主催の学習会、コンパには、これまで通り積極的に参加します。聴講だけでなく実践につながるよう、議論や質疑の場でも、意識して自分の意見を発表できるようにします。
- ②案内以外にも、自ら学びたい内容の研修を探して参加していきます。必ず所内で共有し、また、振り返ることで、計画と支援の実践に生かしていきます。
- ③事業所見学を増やし、情報提供の幅を広げます。
- ④1 か月 2 名の計画増を目指し、またモニタリングやその他加算についても毎月丁寧に拾います。
 - ・昭和区自立支援連絡協議会主催の研修で、弁護士からみた精神科病院の実態講習会、仕事・暮らしサポートセンターの現地説明会、ピアサポーターと若者支援の代表からの体験談、区担当弁護士からの成年後見制度について、虐待防止研修に参加しました。その他、保護者交流サロンへ参加したり、税理士の方からお話を伺ったり、区担当の弁護士へ自己破産の勉強と直接相談をさせていただく機会をいただいたりと幅広い分野の学ぶ機会に参加することができました。
 - ・1 か月 2 名の利用者増を目標としてきましたが、今年度は相談員 1 名が休職・異動となったことで、基幹相談支援センターや他の相談支援事業所へお願いせざるえない状況となり、年間 42 名の契約解除者となりました。新規契約者は 20 名となりました。

2. 利用者数等の分布

①相談の手段

	身体	知的	精神	発達	難病	障害児	合計
電話・FAX・メール	929	363	1049	156	6	172	2675
来所	99	35	26	3	0	3	166
訪問	367	170	400	31	5	86	1059
合計	1395	568	1475	190	11	261	3900

(前年度比1316件減)

②支援内容

	身体	知的	精神	発達	難病	障害児	合計
福祉サービスの利用について	726	372	1015	110	9	183	2415
その他	692	205	455	80	2	77	1511
合計	1418	577	1470	190	11	260	3926

(前年度比1371件減)

③計画相談の実施状況

	身体	知的	精神	発達	難病	障害児	合計
利用計画案作成	59	39	54	8	1	24	185
利用計画書作成	68	35	60	7	3	26	199
モニタリング実施	208	121	206	21	3	54	613
合計	335	195	320	36	7	104	997

(前年度比243件減)

Ⅲ. 継続課題

- ・利用者主体が尊重される計画づくり
- ・関係機関との連携強化
- ・勉強会や研修会に積極的に参加しスキルアップ

マイプラン・ケアマネジメントセンター

I. 総括

新規の受け入れ、高齢者いきいき相談や外部認定調査の受け入れを積極的に行い、自然減が多い年でしたが、赤字縮減に努めることができました。

II. 事業の実施状況

1. 令和5年度の目標達成のための具体的な行動

- ①利用者の状況について常に情報共有をし、連絡があった際に対応できるようにしていきます。
 - ・月に2回のミーティングに加え、随時情報共有をすることで、担当が不在時でも軽微な内容は他のスタッフで対応できるように努めました。情報更新のタイミングも決めることで、生きた情報になるよう務めました。
- ②目的を決めた研修を受け、個々のスキルアップを目指していきます。
 - ・スタッフが各々外部での研修を受け、隔週のミーティング時に報告の場を持ちました。スタッフにより研修受講に対する意識が異なりましたが、事業所として年間15回を超える外部研修を受講しました。また事業所として特定事業所加算取得目的とした年間計画を立てており、加算取得にはつながりませんでした。
- ③作成した緊急時の情報を机上の物にせず、生きた情報にしていきます。
 - ・BCPと関連付けた個人情報の整理ができ、緊急時に向けて図上訓練を行いました。利用者を取り巻く状況の変化や利用者の増減があるため、年1回の図上訓練では対応が難しいこと。また、自事業所だけでは対応は困難になることが想定されることから、事業所間の連携が必要になることが確認でき、今後の課題となりました。
- ④事業の継続を担保するため、利用者を増やし赤字を縮減していきます。
 - ・特定事業所加算は人員要件を満たすことができず年度当初で断念することになりました。必要に応じて受け入れ条件の見直し提案をする予定でしたが、条件に合致した新規の依頼が多く、受け入れられない状況となり提案を見合わせました。今年度の傾向として、逝去6人、入所6人、長期入院3人と自然減が多くありましたが、高齢者いきいき相談室や外部の認定調査の依頼を受け、新規の受け入れや、金額としては大きくないが相談料及び認定調査料を積み上げることができました。

2. 年間利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護利用者数	52	56	61	59	60	64	62	62	60	57	63	63
要支援利用者数	20	19	19	21	21	21	23	22	23	23	23	25
総合事業利用者数	7	7	7	7	8	7	8	8	8	8	9	8

III. 継続課題

令和5年度は、本人やご家族が精神疾患を持っている方や神経難病の方が多く、本人だけでなく家族支援が必要になるケースが増えました。また、障害福祉サービスや医療サービスと併用するケースも多く、複雑化しています。困難ケースや高齢者障害者受け入れているとのことで、いきいき支援センターから指名していただけることはありがたいのですが、地域で対応できる事業所が少ないことを意味しております。地域で困難ケースや高齢者障害者の受け入れができる事業所が増えるようマイプランとして何

ができるか今後検討していきます。赤字縮減を目指すとともに、支援の質を落とさずその時々課題に対応できるよう、個々のスキルアップに努めていきます。

I. 総括

令和3年8月の開所から2年が経過し、開所と同時に入所をした利用者8名が一斉に卒業をして地域移行を果たしました。仲間の卒業を祝福する一方で、定員の半数にもなる利用者が一気に退寮したことで施設の財務状況を圧迫しました。

コロナ禍が終息し、病院へのメッセージ活動も対面でできるようになったことで、前年度よりは入院中のアルコール依存症者に回復モデルを届けやすくなってはいるもの、財務状況を改善できるほどの入所者の確保は望めず、年度末においても苦しい状況が続いています。

入所者確保のための新しい試みとして、従来の医療関係者のみでなく、近隣の相談員や区の生活保護係などの福祉職の方向けに「アルコール依存症の学習会」を開催して、病気についての理解を広めるとともに、私どものことを知ってもらい、早い段階からアルコール依存症者に関わりをもち回復へと導くことができるような仕組みをつくることを試んでいます。

身体・知的障害の方への就労支援サービスにおいては、重度の自閉症の方をお迎えしサービス提供を行いました。その方は大人数の中ではパニックを起こしてしまわれる方なので、静かな環境で作業を行えることに、本人・家族ともに喜んでいただいています。

II. 事業の実施状況

1. 令和5年度の目標達成のための具体的な行動

(1) それぞれの特性に合わせた事業内容を提供し、社会復帰及び生活能力向上に繋がるプログラムの提供をします。

- ・ AAの12のステップを基にした毎日2回のミーティングを重ねました。また夜は県内16カ所で開催されるAA（ナイトミーティング）へ参加を続けました。昼も夜もミーティングを重ねることで、アルコールに頼らない毎日を積み重ねました。
- ・ アルコールプログラム（ミーティング）と並行して、レザークラフト・除草作業・畑作業・焼き菓子づくりを提供し、社会復帰や生活能力向上に向けてのトレーニングを行いました。
- ・ 朝・昼・夕の食事づくりと片づけをスタッフと一緒に担うことで、自炊能力の向上や一般就労での活用を目指しました。

(2) 自立訓練（生活訓練 83%及び宿泊型 90%）、その他就労移行支援及び就労継続B型の利用率を共に50%以上を確保できるようにし、全体で70%以上確保します。

- ・ 自立訓練については、夏に入所者が2年の入所期間を終え8名が地域移行をしました。その利用者数の減少により、生活訓練 53%宿泊型 51%と下回っています。就労移行支援については目標値 50%のところ平均値 75%と達成しました。就労継続支援B型については、目標値 50%のところ 39%と下回っています。全体の平均値としては目標値 70%のところ、54%と下回っています。
- ・ 目標値を達成できなかった原因としましては、内的要因として①利用者を確保するためのルートが病院へのメッセージ活動しかないこと。②開所して以来利用者が一斉に退寮するのがはじめての経験であり見込みとして甘かったこと。外的要因として①コロナ禍により病院へ入院するアルコール依存症者が以前と比較して減少していること。②減酒外来により安易な方に利用者が流れてしまっていること。③精神障害者の課題として社会的入院が長く地域移行に積極的な医師やケースワーカーが少ないことがあげられます。

(3) 三者協定書の締結するため、地元自治会・名古屋市・AJU で三者協議会を月2回定期的に開催します。

- ・地元自治会、名古屋市との三者協議会を定期的に行い、年度末に協定書の締結ができました。協定書に基づき施設運営をおこなっていきます。

2. 利用実績

<1日あたりの平均利用者>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
宿泊型 (名古屋マック)	12.1	11.3	11	9.4	5.3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.7	5.3	6.0	7.2
生活訓練 (名古屋マック)	13.6	12.7	13.2	11.6	6.7	4.9	4.9	4.9	5.0	5.7	5.3	6.5	7.9
就労移行支援 (Tiny)	1	1	1	3.0	3.3	4.5	4.7	4.5	4.5	5.4	5.5	6.4	3.7
就労継続支援B型 (TYM)	3	3	3	3.0	5.9	5.7	5.0	4.3	4.2	2.9	2.8	3.9	3.9
計	29.7	28	28.2	27	21.2	20.1	19.6	18.7	18.7	19.7	18.9	22.8	22.7

<当初目標利用者数における達成率>

	当初目標 利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
宿泊型 (名古屋マック)	14	86%	81%	79%	67%	38%	36%	36%	36%	36%	41%	38%	43%	51%
生活訓練 (名古屋マック)	15	91%	85%	88%	77%	45%	33%	33%	33%	33%	38%	35%	43%	53%
就労移行支援 (Tiny)	5	20%	20%	20%	60%	66%	90%	94%	90%	90%	108%	110%	128%	75%
就労継続支援B型 (TYM)	10	30%	30%	30%	30%	59%	57%	50%	43%	42%	29%	28%	39%	39%
計		57%	54%	54%	59%	52%	54%	53%	50%	50%	54%	53%	63%	54%

Ⅲ. 継続課題

- ・入所利用者の確保。入所に至るまでのルートを病院へのメッセージ活動のみでなく、他のルートも開拓すること。身体・知的利用者の確保。
- ・情報共有や検討課題の話し合いの質を高めるため日報や定期的なミーティングなどの仕組みを改善。
- ・就労移行支援・喫茶をどのように活用するか見直し。
- ・感謝の集いなどの広報活動やイベントの再開。

社会啓発・社会貢献事業室

I. 総括

障害者のエンパワメントとインクルーシブ社会の実現を目指して活動しました。

自立生活支援事業では、普段の生活に欠かせない「食事作り」に焦点を当て、普段作ったことのない調理を調べて作ってみるという企画を行いました。また月に1回、当事者同士で集まり話し合う機会を作り、普段の生活で困っていることなどを話し合い、より豊かな生活になるような支援を行いました。

啓発事業では、センターdeショーを開催し、2022年8月に国際審査を受けた障害者権利条約について法人内のスタッフ、利用者と共有する機会を持ちました。各団体の活動を通じた活動では、愛知県障害者の生活をよくする会（以下、よくする会）が創立50周年を迎え、3月に記念行事を行い県外の当事者団体の方をお迎えして、今後の愛知・名古屋での障害者運動のヒントとなる機会を持ちました。愛知県重度障害者団体連絡会では、2026年に愛知県で行われるアジア・アジアパラ競技大会に向けての働きかけを行いました。シンポジウムの開催、また2023年に中国で行われたアジア・アジアパラ杭州大会に視察に行きました。また昭和区の福祉まつりや全国自立生活センター協議会（JIL）の中部ブロックの会議に参加し、他団体との交流の機会を持ちました。

II. 事業の実施状況

1. 令和5年度の目標達成のための具体的な行動

①障害者同士の対等な関わりの場と、障害に関わらない人間関係をつくり、エンパワメントを促します。

- ・ピア・カウンセリング：愛知県豊田市で開催されたピア・カウンセリング集中講座にサマリアハウス入居者1名が参加しました。
- ・自立生活プログラム：10月に自立生活プログラムとして調理実習企画を行いました。今回は自分の作りたい料理を普段関わってないボランティアと一緒に作るという企画を行いました。参加者3名。
- ・月一企画：ZOOMと対面で当事者同士で話し合う機会を持ちました。ZOOMでは春日井の施設に入所されている方の参加もあり、繋がりを継続する機会となりました。また対面での活動では、当事者同士で意見を出し合いお互いの普段の生活を知ることができ、参加者同士自分の生活を振り返る機会となりました。実施回数12回、延べ参加者数57名。

②車いす貸出事業を通し、制度の狭間にある方の社会参加を促します。

2023年度も車いすの無料貸出を通し、制度の狭間にある方の支援を行いました。子ども用車いすの貸出も多く、車いすがあることで家族旅行に参加できた方や、幼稚園での生活に参加できる方などの社会参加を促すことができました。またテレビ局の取材を受け私たちの活動を知ってもらう機会となりました。

③啓発事業を通し、社会へ人権意識を深めます。

- ・今年度も各団体の事業を通し、愛知県・名古屋市に向け要望活動を行いました。よくする会は2023年9月に創立50周年を迎え、2024年3月9日に記念パーティを行いました。当日は100名を超える参加があり、愛知県の障害者運動の歴史とこれからの運動について考える機会となりました。愛知県重度障害者団体連絡協議会では2026年に行われるアジア・アジアパラ競技大会に向けシンポジウムを年3回行いました。また2023年に中国で開催されたアジア・アジアパラ杭州競技大会に視察に行きました。
- ・他団体交流ではJILの中部ブロック、昭和区の福祉まつり、昭和区自立支援協議会の会議に参加し、

他団体と交流の機会を持ちました。また関西の自立生活センター「リアライズ」、JIL政策委員会の方がAJU車いすセンターに来所され、交流の機会を持ちました。

- ・センターdeショーでは障害者権利条約の周知をテーマに2か月に1度開催しました。障害者権利条約に沿ったテーマを選び、自分たちで学習し合い、それを自立の家の人々と共有する取組を行いました。また参加者募集に力を入れ、事前に参加を呼び掛けることで参加者を増やすことができました。
- ・ボランティア講座を行う予定でしたが、助成金申請が通らず未実施。

2. 貸出実績数

【1. 貸出実績】

		新規		実績
		個人	団体	
4月	39	22	17	207
5月	35	31	4	199
6月	89	26	63	251
7月	36	32	4	201
8月	28	25	3	201
9月	43	23	20	214
10月	30	22	8	195
11月	47	36	11	208
12月	28	26	2	200
1月	22	21	1	186
2月	43	28	15	199
3月	32	32	0	194
合計	472	324	148	2455

【2. 年齢別(新規貸出)】

0～9	64	20%
10～19	21	6%
20～29	33	10%
30～39	38	12%
40～49	35	11%
50～59	48	15%
60～69	58	18%
70歳～	27	8%
合計	324	100%

【3. 年齢別(令和6年4月1日現在)】

0～9	11	7%
10～19	10	6%
20～29	4	2%
30～39	5	3%
40～49	20	12%
50～59	29	17%
60～69	21	13%
70～79	68	40%
合計	168	100%

Ⅲ. 継続課題

- ・スタッフの育成
- ・車いす在庫の確保
- ・福祉制度に関する学習
- ・効果的な啓発活動の方法の模索